

議 事 録

日 時	令和5年10月24日（火曜） 午後6時00分から午後8時00分まで
場 所	日野市役所505会議室
会議件名	第3回第4次日野市学校教育基本構想検討委員会
主な議題	教育基本構想について
参 加 者	委員長：梅澤秋久、副委員長：川上潤、委員：小宮広子、土屋早苗、船山徹、和田栄治、黒澤一慶、諸星修、前洋子、佐野礼子、赤久保洋司、中田秀幸、村田幹生、長崎将幸、竹山弘志 森田正男（欠席）
配布資料	あり
結 果	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 了承(意見なし) <input type="radio"/> 了承(意見あり) <input type="radio"/> 要修正・再説明 <input type="radio"/> 不承諾 <input type="radio"/> 情報共有のみ <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> } </div> <p style="margin-left: 40px;">いずれかに該当する場合は「主な内容」欄に意見要旨を記載</p>
主な内容	<p>開会</p> <p>事務局：定刻となりましたので、第3回第4次日野市学校教育基本構想検討委員会を開会いたします。</p> <p style="padding-left: 2em;">（資料確認）</p> <p style="padding-left: 2em;">以降の議事進行については、委員長をお願いいたします。</p> <p>委員長：委員の皆さまには、大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p style="padding-left: 2em;">それでは、次第に沿い議事を進行してまいります。</p> <p>次第1 日野市教育委員会教育長挨拶</p> <p>委員長：次第1「日野市教育委員会教育長挨拶」として、教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>教育長：本日は大変お忙しい中、ご参集いただきありがとうございました。</p> <p style="padding-left: 2em;">今回は第3回の検討会ということで、骨子案についてご議論をいただきます。今回の委員会は、何十回も議論を重ね練り上げていくということではなく、全4回の議論ということです。いろいろなところで、並行してワークショップ等が行われ、さまざまな声を聞き纏めており</p>

ます。

そのような中で、皆さまにお願いしたい点が2点あります。1点目は、大きな方向性をご議論いただきたいということです。2点目は、さまざまなお意見を総合していただきたいということです。前回の第2回委員会で議論していただいた内容を踏まえ、事務局で総合した案を骨子案としてお示ししています。案ということですので、ぜひご意見をいただき、第3次日野市学校教育基本構想の内容やこれまで学校や地域で取り組んできたことを継承しながら、日野市の学校教育をさらに前に進めていけるような構想となるように、ご議論を進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

次第2 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会委員長挨拶

委員長：次第2「第4次日野市学校教育基本構想検討委員会委員長挨拶」ということで、私よりご挨拶申し上げます。

いよいよ骨子案が示されました。第3次構想は、10回近くの委員会で議論を重ねて練り上げ、大変すばらしいものができたと考えておりました。一方で、その数年間、どのくらい学校現場に落ちていったのかと考えると、やはり大きな格差があったと反省しています。

第4次構想では、その反省も踏まえ、会議回数は少ないですが、14,000人以上の方の市民の声を聞きとり、50回以上のワークショップを行って、ボトムアップ的な日野市の教育へのご意見を集約し、まとめてきており、本会議では方向性等を決める大きな役割を担っています。後ほど、構想案の説明をさせていただきますので、それを踏まえ、ぜひご意見をいただき、多様なご意見のさらなる方向づけをしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

次第3 第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた取り組みの経過について

委員長：次第3「第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた取り組みの経過について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：(資料02-01に沿って説明)

委員長：ありがとうございました。

次第4 第4次日野市学校教育基本構想骨子案について

委員長：次第4「第4次日野市学校教育基本構想骨子案について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：(資料04-03に沿って説明)

コンサルタント：(資料04-02に沿って説明)

委員長：資料04-01「第4次日野市学校教育構想(案)」と、資料04-03「第4次日野市学校教育基本構想骨子案について」、4「構想の各項目」の3枚目のスライドを中心に振り返ってみると、このイメージ図は、日野市教育委員会の思いが込められている縮図だと思います。第3次の「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」という上位理念を踏襲し、今回、新たに「今」という言葉を加えています。「子どもと大人の10+の姿」というものは、14,000名以上の人の声と50回以上のワークショップから作り出された姿です。さらにそれらを踏まえ、3つの基本方針を示したという捉え方でよろしいでしょうか。

事務局：はい。

委員長：教育理念、子どもと大人の10+の姿、基本方針については、私ども等第三者よりも、子どもたちやワークショップに参加された先生の方がお詳しいかもしれません。一方で、3つの基本方針の下の部分については、まだ変革の余地があると思います。「8+プロジェクト」の推進方策については、実行する学校等が実施する上で、他にも考えられるプロジェクトがあるということで、「〇〇プロジェクト」という形で、考える余地を残しています。さらに、行政、学校、家庭、地域という形で、それぞれの推進方策を挙げています。

第3次構想では「みんなでゆっくり」と掲げていますが、ゆっくりとしていて進まない学校も多かったという反省もあります。今回は、年度で重点施策をそれぞれの立場でしっかりとたて、プロジェクトを立ち上げ、それに関わる指標も自分達で選択、組み立てをして、PDCAを回していくということです。さらに、その指標は、他の学校と比較するのではなく、個人内評価ということで、「昨年度の学校よりもよい学校にしていこう」「昨年度の自分達よりもよくしていこう」という姿勢で取り組みを進めるということです。この捉え方でよろしいでしょうか。

事務局：はい。

委員長：では、この取り組み方と図式化された考え方を踏まえて、次に進みます。

次第5 第4次日野市学校教育基本構想骨子案についての意見交換

(1) 全体像について

委員長：全体の会議形式で、教育理念について意見交換を行います。「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」に、「今」を加えたということ、加えて「子どもと大人の10+の姿」を掲げたことについて、ご意見があればお願いいたします。

「今」が付け加えられたことは、教育学の見地からみると、非常に重要な要素になると思います。「今・ここ」ということに、関わる人をいかに没頭させるか、夢中にさせるかということは、「ラーニング・エンゲージメント」と表現されます。そのことは、職場でも同じように「ワーク・エンゲージメント」と表現されています。突き詰めれば、「子ども達が学びや遊びに没頭することの連続が、サステナビリティ、持続的な未来をつくっていく」と捉えることができます。「今」が加えられたということで、すばらしい文言が付け加えられたと理解をしています。

理念についてのご意見はよろしいですか。

その下の「子どもと大人の10+の姿」に移ります。背景には、14,000人の声を集約していただけたと思います。文言、タイトル等も含め、ご意見があればお願いいたします。これは、ボトムアップによって集約されたものですので、概ねの方向だと思います。後ほどでも結構ですので、ご意見があればお願いいたします。

先に進み、「3つの基本方針」について、ご意見があればお願いいたします。「姿」は、とてもすばらしい言葉だと思っています。「〇〇ができる」という行動目標だけではなく、「このような形にしていこう」という行動目標と目指す姿が含まれています。ただし、それだけで表すと、若干ぼやけた印象になるので、より理念に近づけるため、ポリシー、方針を3つに集約したということです。

1つ目は「みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる」です。第3次構想では、もしかしたら、この当事者性が欠けていたのかもしれま

せん。そこを補ったものがこの方針です。

2つ目は「みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる」です。ダイバーシティ、多様性が重要だと言われています。

3つ目は「社会と未来に開き、みんなで作る」です。基本方針の全てが、「つくる」「クリエイティビティ」という形で表わされています。この3つの基本方針について、ご意見をいただきたいと思います。

委員：この3つの基本方針は、素晴らしいと思います。全ての基本方針に「みんな」が入っています。これは第3次構想にもある「みんな」が継承されているのだと思います。ただ、第3次構想では、「あなたは何をしますか」という問いになっていますが、第4次構想では、「あなたたちは何をしますか」という問いになっています。それぞれの役割、学校、地域、保護者、行政等の立場に落とし込んだ際、複数人で役割を担うこととなりますので、「あなたたちは何をしますか」という問のほうが、踏み込んだ印象になると思います。そのことで、それぞれの立場で考えることができ、「役割を明確にしていきましょう」という考え方が感じ取れます。

委員長：ありがとうございます。「あなたたち」という複数形の価値づけをしていただいたと思います。

今のご意見のように、解釈についての感想等をいただけると、各学校、地域に下した際、理解度も上がり、使いやすくなると思います。他に
ご意見等はございませんか。

委員：「みんな」が強調され、「あなたたち」と問っていることで、一つ気を付けなければいけないことは、「子どもと大人の10+の姿」の「みんなの姿」は、保護者にも問われていますし、行政にも問われていますし、学校にも問われています。この「みんなの姿」が人任せにならないように、自分にも問われているということを認識することが大切だと思います。

委員長：ありがとうございます。すてきなご提言だと思います。

第4次構想では「well-being」と書かれていますが、これは「みんなの幸せ」であり、幅広い面積に、どの程度広げられるかが問われているのだと思います。面積に対し、高さが未来への長さとするのであれば、well-beingの体積をどこまで広げていくのかが問われてくる時代だと思います。今のご意見は、「全員が当事者意識をもち、その面積

を拡げていきましょう」というご提言だったと理解しています。
他にご意見等はございませんか。
では、次に進みます。

次第5 第4次日野市学校教育基本構想骨子案についての意見交換

(2) プロジェクト+推進方策についてのグループ対話

委員長：いまから、4グループに分かれ、「プロジェクトの切口」、「プロジェクトの評価」あるいは、「5年間活用するにあたっての視点」に立ってご議論をいただきたいと思います。議論は30分で、その後、発表及び意見交換とさせていただきます。

<グループワーク>

委員長：それでは、30分が経ちましたので、各グループの発表、意見交換に移ります。各グループ30分程度の発表をお願いいたします。

Aグループから発表をお願いいたします。

Aグループ：「すべてのいのちが」という教育理念は大変すばらしく、色分け方法もよいという意見がありました。「子どもと大人の10+の姿」は、色がマーブル状に混ざっており、みんなで関わっていることを表しているように感じました。

それに対して、下の部分では、単色で「地域」「学校」「行政」というように分かれている印象を受けました。単色にすることで、当事者意識が持ちにくく、例えば、「家庭では青色のところだけを見ればよい」というような解釈になり、残念な印象になるという意見がありました。

黄色で表示されている「学校」こそ、家庭や地域が関わっていける部分ではないかということで、「8+のプロジェクト」のところも、色を混ぜ合わせた表現にすると、当事者意識を持って見ていただけるのではないかという意見もありました。

一方で、この構想を保護者の方々が見たときに、「この中で自分は何に関わっているのでしょうか」「何ができているのでしょうか」と考えるとすると、イメージが湧きにくいように思います。「このようなことなら関わっていける」という具体的な行動イメージを挙げられるとよいと思います。この「〇〇のプロジェクト」という表現がいろいろなところに関わる部分だと思いますが、ここをもう少し保護者に向

けた内容にすると良いのではないか。例えば、「朝、気持ちよく送り出す」と表現すると、保護者が地域や学校に関わっているとわかり、保護者も「関わっている」という意識をもつことができるという意見もありました。

委員長：デザイン上のご意見をいただきました。皆さんに当事者意識をもっていただくために、色の工夫があってもよいというご意見でした。大事な視点だと思います。

また、第4次基本構想は保護者にも見ていただきますので、保護者として何ができるのかということをご家庭の中の簡単なことでも構わないので、示すというご提案をいただきました。それは児童生徒が学校生活をおくる上で大切な前提であり、より豊かで幸せな未来をつくることにつながっていくことだと思います。そのような視点で、保護者の方々への日常的なアドバイスも加えられたらよいと思います。

委員長：Bグループの発表をお願いいたします。

Bグループ：Bグループは行政のグループです。「8+プロジェクト」の中で、子どもたちがつくる学校や「〇〇のプロジェクト」というところは、子どもたちが主体となるプロジェクトでありたいという意見がありました。また、そのような意味では、全プロジェクトが教育理念を実現するためにつながっているということがよくわかると思います。一方で、「ゴールが見えないところもある」という意見もありました。具体的に何をするのが見えないということで、学校が独自で決めていくという部分もあると思いますが、このゴールが「子どもと大人の10+の姿」につながるのか、それとも基本方針につながるのか、もう少し議論する必要があるのではないかとご意見でした。

上の「4+プロジェクト」と、下の行政の4つのプロジェクトでは、表現がずいぶん違うという意見もありました。第3次構想では、行政が行うべきことが不明確だったからこそ、第4次構想では明確にしたいという事務局の考えをGrp内で共有しました。そのような意味では、これをしっかりと実行していくことで、5年後の学校を支え、前向きな姿になっていくことの保証になるのではないかとご意見です。ただ、これら全てを実施する上では、財政的な課題もあり、調整が必要になると思います。また、行政間での連携においては、企画的なことでは、財政的な支援や地域の兼ね合いが重要になってきます

し、子ども部との連携は、共有している施設についての観点等が必要となります。「地域としての学校が核となる」という意味では、各論として「スクールコミュニティプロジェクト」というものが、今後、大切になってくるということで、地域の中での学校の捉え直しも並行で進める必要があるという議論がありました。その中で、「どのようにしてつながっていくのか」「つながる意味」というものを考えていく必要があるという意見がありました。

委員長：「ゴールが見えにくいのではないか」というご指摘がありました。このことは恐れる必要はないと思います。子どもたちにもプロジェクト学習をやらせる時代ですので、これを先生方が恐れていたら全く進まないと思います。先行き不透明な時代だからこそ、最適解を皆さんで見つけていくという考え方が必要だと思います。

ゴールの方向性は、各学校で見いだす必要はあると思います。「どのように進めたらよいかわからない」という学校は、一律一斉の学びを大前提としているのではないのでしょうか。「他校を見てから」と言っている学校は、一世代前の教育に近いのではないのでしょうか。未来をつくるということは、先行き不透明で新しい物をクリエイティブイ、イノベーションできる子どもたちをつくっていくことです。先生方がゴールを見据えて、暗中模索、紆余曲折することはあると思いますが、それでも今よりもっとよい学びをつくっていくことにつながると思います。また、そのような学校になっていかなければなりません。ですから、ゴールが見えないものをみんなでどのようにしてつくっていくのかということを中心に大事にされるとよいと思います。

一方で、教育委員会では、かなり具体的な施策が掲げられています。いわゆる重点施策と言われるものを掲げる必要があります。教育委員会としては、各学校から「このようなことを実施したい」という声が集まる場所に、お金をかけなければならないと思います。

縦割り行政と言われる中で、市では、部局を越え、子どもたちのよりよい未来をつくり、発達支援を支える施設があります。縦割りの垣根を超えて進めていくことが重要だと思います。「学校がハブとなる」という表現がありますが、まさしくその通りだと思います。学校は皆さんが集まりやすい場所ですので、学校が中核となり、児童生徒を育てるだけでなく、より小さい子どもや高齢者等、それ以外の世代の方た

ちも集える場所となることや、スクールコミュニティプロジェクトが、この5年間には必要になってくるのではないかと思います。さらにその先も見据えながら、進めていくということです。

委員長：では、Cグループの発表をお願いいたします。

Cグループ：Cグループは、学校関係のグループです。教育理念については、「今を大切にしよう、その先に未来がある」と考えたときに、「今を大切にする」という発想はとても素晴らしいという意見がありました。そして、その前提に立って、今後の5年間の前向きな変化につながる手立てを考えていこうということで、議論いたしました。

議論の中では、学校がやりたいと思ったことを阻害する要因があれば、その要因を行政でカバーしてほしいという意見がありました。具体的には、プロジェクトを学校長の思いだけで進めることにならないよう、ご支援をいただきたいということがあります。1つには、この基本構想は、学校長がプロジェクトを進める上での根拠になりますが、それに、研究発表や複数校が共同で進める体制づくり等を加えるというアイデアがでました。例えば、そこに予算を付けていただければ、校内研究としてプロジェクトを進めていき、そこでの成功事例を、発表会で他校に紹介し、広げていくということが可能です。すると、同じ取り組みをしようとしている学校が、ゼロベースからのスタートをする必要がなくなり、示された課題やその解決法を参考にできるといことです。そのような共有システムができるとよいという意見がありました。

遊びと生活という視点では、構想に、幼児教育について、もう少し盛り込むことができるとよいという意見がありました。同様に、地域、保護者の当事者意識をさらに高めるような内容も、盛り込むことができるとよいという意見もありました。

委員長：「やりたい」ということを、いかに行政が支えるかという視点は大切だと思います。これは、第4次構想の根拠になる可能性があると思います。ここで言う共生はインクルーシブな共生であり、強制的な共生になることはよくないと思います。ただ、柔らかな縛りがないと進んでいけないことも、第3次構想でわかっています。かなりオープンな内容で進めていく必要があると捉えています。自分達で考えたゴールに向かって、自分たちのペースで進めていく必要があるということ

す。

その中の1つの手法として、複数校でのプロジェクトが提案されました。これは新しい発想だと思います。気を付けたいことは、パイロット構想では、ある特定校だけが先に進み、他校がまねだけをするようなことにならないようにすることです。他校のやり方を活用して、自分の学校でどのようにアップデートさせるのかが重要になります。他校のまねだけを続けていると、新しいことが生み出せません。同じようなプロジェクトに対して、それぞれの学校が、さまざまなアプローチをして、その情報を交換することが重要だと思います。同じ「学びの変革プロジェクト」であっても、学校によって、対話を重視した学びに違いがあり、そのよさを他校が活用する際には、どのようにしたらよいのか考えていくということです。

財政面の内容についてのご意見もありました。例えば、私の学校では、やりたいことを申請し、その申請に対し予算をつけていただくというしくみをとっています。競争原理を前面に出さずに、皆さんで取り組んでいくしくみということです。加えて、国の科学研究費をとるということも推奨されています。大切なことは、各学校がやりたいことをやれる状況をつくることです。

最後に、幼児教育に関しては、「学校」という言葉は何度かでてきますが、「園」という言葉はでてきません。公立園、私立園がありますので、「学校・園」という表記にさせていただくと、価値がさらに上がるかと思います。

Dグループの説明をお願いいたします。

Dグループ：Dグループでは、下段のプロジェクトに焦点をあてて議論をしました。行政が進める4つのプロジェクト、学校が進める3つのプロジェクトをうまくリンクさせていくことが必要だということで、議論を進めました。例えば、「学校を支えるプロジェクト」では、具体的には、教育活動を支えるしくみや人材リソースの確保が必要だということです。さらには、職員室のオフィス化による働き方改革も進めていければよいという意見もありました。

「多様な学びと学び方プロジェクト」では、日野市にはエールという施設がありますが、ニーズが多く、なかなか予約がとれないとか、立地の問題等も解決していく必要があるという意見や、障がい児を抱え

る保護者へのフォローや専門家の確保も必要だという意見も出ました。カリキュラムを個別化していくときに、今後はAIの活用も視野に入れていくことができればよいという意見もありました。

「教育DXプロジェクト」については、日野市からノーベル賞の受賞者ができるとよいという発想で、教育の成果として目玉となるプロジェクトができるとよいという意見がありました。デジタル活用の最先端となるような人材を輩出でき、全国から「日野に学べ」と見られるような取り組みができるとよいということです。

これらを裏付ける予算が必要だということも申し添えます。

委員長：いろいろな団体と連携をさせるという考え方は、Aグループのグラデーション化と近いご意見だと思います。

人材に関しては、Cグループのご意見にもあったように、教育委員会から適材な人材の紹介をしていただけるとよいと思います。

職員室のオフィス化については、他市の事例もありますが、実際に実現している学校もあります。ソファや大きなテーブルがあり、個人の机はありません。ただ、転任してこられた先生や新任の先生が驚かれたり、職員室の先生の居場所確保が難しくなったりするという課題があります。

先進校の視察等をしながら進めることが必要だと思います。学校同士の知識の交換も大変重要だと思います。正に、AI活用や教育DXの推進は、デジタルトランスフォーメーションなので、単なる活用ではなく、新しいものを生み出すために、いかにICTを活用していくかが問われているのだと思います。一人一台端末の活用を利用して、空いている時間に、個別最適化の学びが進められるようになっていきます。教育委員会から情報発信することで、子どもたちのカリキュラムの個別化も進むのではないかと思います。

日野市の中でも、個別最適化の学びに向けて取り組んでいる学校もあります。そのようなパイロットスクール的な学校を、他の学校の先生が視察をすることで、新しい学びのあり方、「学びの変革プロジェクト」を進めていけるとよいと思います。

各グループからの発表が終わりました。「8+のプロジェクト」に関する議論をしていただけたと思います。概ね、この形で進めることができると思います。さらにブラッシュアップすることで、さらに第4

次学校教育基本構想がよい形でまとめられるように思います。詳細部分について検討する必要があると思いますが、委員長と事務局にお任せいただくということでよろしいでしょうか。

各委員：(異議なし)

委員長：では、事務局と委員長で確認させていただきます。

また、一部の指標についてもご意見をいただきました。数値目標だけになるのは避けたいというご意見もいただきました。ご指摘の通りだと思います。他校等との比較ではなく、数値化できないもの、質の確保も必要です。「このような学びの変革がありました」ということを見に来ていただいたり、動画等を発信したりすることができると思います。指標が単なる数値の達成目標にならないことを大前提として、振り返った後に、次年度以降、次学期以降のよりよい学びにつながるような指標になればよいと思います。

この指標についても、委員長と事務局にお任せいただくということでよろしいでしょうか。

各委員：(異議なし)

委員長：ありがとうございます。

それでは次に進みます。

次第6 次回の内容の確認

委員長：次第6「次回の内容の確認」について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局：(説明)

委員長：修正後の案については、委員の皆さまにメール等で送付するということがよろしいですか。

事務局：今回同様、開催1週間前にはお手元にお届けしたいと考えております。

委員長：では、パブリックコメントには、このままの形で出すということでよろしいですか。

事務局：パブリックコメントについては、本日のご意見等を踏まえ、微修正したいと考えております。

デザイン的な部分に関しては、パブリックコメント外の話だと考えております。方向性や構想を示す言葉を諮っていきたいと思います。

委員長：パブリックコメント前に、デザイナーにデザインをしていただくとい

うことですか。

事務局：デザインに関しては、パブリックコメントの前にお願ひする予定です。
ただ、時間的にパブリックコメントに間に合わない可能性がありますので、平行して進めさせていただきたいと考えております。

委員長：デザインは、日野市教育に造詣が深い方にお願ひするということで、よろしいでしょうか。

各委員：(異議なし)

委員長：ありがとうございました。

では、並行して進めていただくということで、よろしくお願ひいたします。

7 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会副委員長挨拶

委員長：次第7番「第4次日野市学校教育基本構想検討委員会副委員長挨拶」ということで、川上副委員長、よろしくお願ひいたします。

副委員長：皆さん、本日はお疲れ様でした。非常に中身の濃い内容の2時間で、素晴らしい素案ができたと思います。教育理念があり、行くべきゴールがあり、行くための具体的プロジェクトが示され、それをどうやって進めていくかということのすべてのピースが示されています。今回の委員会では、「大きな方向性を決める」「インテグレーションする」「具体性を持たせる」という3つが議論できたと思います。大きな方向性とインテグレーションについては、かなり達成できていると思いますので、残りはブラッシュアップするところと、具体性を担保し、今後の時間をどう使うかが求められていると思います。その残りの部分は、委員長と事務局に一任させていただきましたので、よろしくお願ひいたします。

「子どもたちと大人の10+の姿」のゴールは、とても大切なことだと思います。この部分は磨き込んだほうがよいと思います。磨き込む際に意識することは、相互に重複がないことをチェックし、全体をしっかりととらえていることだと思います。そのようにして、10個の要素をもう一度見ていただくと、自然に、10個を覚えられるようになると思います。

もう1点は具体性に関することです。このプロジェクトを学校や教育に関わる方たちが始めようと思う、そう思わせる具体的なしかけが必

	<p>要だと思えます。強制的にやらせることや、「一緒にやりませんか」と勧める方法、コンペを行う方法等もあると思えます。そういうことを構想に書くかどうかは別にして、施策を用意することは、具体性をもたせるために非常に重要だと思えます。</p> <p>最後に評価指標については、非常に先進的だと思えます。ビジネスにおけるKPIに当たると思えます。例えば、「売り上げを上げろ」と言うだけでは上がりませんので、「売り上げを上げるために何をするのか」ということを考えます。「訪問数を増やす」等の考え方がKPIです。この構想に掲げたプロジェクトに行きつくために、何で測るのかということです。そのようなことを教育の場で実践できるということは、非常に先進的な考え方だと思えます。しくみの一環として強調されてもよいと考えます。KPIを横並びにするものではなく、自分が一番大事だと思うKPIを追いかけていくことが重要です。そのようなコンセプトとともに、しかけの1つとして進めていけるとよいと思えます。</p> <p>よくまとまっていますので、さらにブラッシュアップさせ、具体性を持たせて、次回の第4回検討委員会に向かっていきたいと思えます。</p> <p>本日は、お疲れ様でした。</p> <p>委員長：ありがとうございました。</p> <p>本日の議事はすべて終了いたしました。</p> <p>次回の第4回は、令和6年2月17日、土曜日の14時から、本日と同じ会場で開催する予定です。次回も傍聴及びオンラインのハイブリッドで開催いたします。</p> <p>以上で、第3回第4次日野市学校教育基本構想検討委員会を閉会いたします。</p>
作成者	教育指導課 小松